

ANNUAL REPORT 2019

一般社団法人ふくおか FUN

第5期 事業報告書

2018年12月1日~2019年11月30日



第5期を振り返って

ふくおかFUNは11月末をもって第5期を終了いたしました。これまで、本当に多くの皆さまからのご支援、ご指導を賜りましたことを改めて深く感謝申し上げます。

第5期も、設立当初から理念として掲げている『自然伝承』を軸として様々な活動を行ってまいりました。現在の活動のほとんどは、ふくおかFUN単体で行うものではありません。行政や地域、漁業者、研究者、教育機関、NPO、企業といった多様な主体と協力、連携しながら取り組むことで高い相乗効果が生まれ、年齢や地域、立場といった壁を越えた幅広い層と共に水中環境について考え行動する場を創り出しています。

さらに、近年世界的にも注目を集め各地で取り組みが進められている海ごみ問題に関しては、今期ふくおかFUNのダイバーが実際に博多湾に潜って海底ごみを引き上げ、そこで得た情報を伝えていく「海ごみ回収プロジェクト」を始動しました。

今後も、博多湾を中心とする福岡の海の豊かな自然環境を次世代まで繋いでいくため、信憑性が高く誰の目にも分かりやすい水中の情報をもとに事業を展開し、また、体験や対話を通じてさらに多くの人々に地元の海に触れてもらうことを目指します。そして、同じ意識や想いをもつ関係機関との情報共有、発展的な意見交換を強化することで、課題解決のための新しい考えや手法を生み出し、実践していきたいと思えます。

目次

代表挨拶	・・・	3
事業報告	・・・	4
スタッフ紹介 / 座談会	・・・	8
ふくおかFUN5年間の歩み	・・・	10
第6期計画 / サポーター募集	・・・	11

代表挨拶



第5期も多くの方の支えの中で活動に励むことができました。各プロジェクトにおいても多様な主体と連携したことで、これまで以上に「伝える」「考える」場が生まれました。環境問題の多くは、ネガティブな事実があって初めて社会が動きます。しかし、ふくおかFUNが行うほとんどの活動は「発生抑制」に主眼を置いています。博多湾を含む福岡の海には、豊かで恵まれた環境がたしかに存在しています。この海を守っていくために、今後起こり得る問題にいち早く気づき、考え、実際に行動していくことが大切です。事が起こってからでは遅い、だからこそ、「今」取り組むべき社会課題に対して、第6期もたくさんの笑顔の中で真剣に向き合う時間を大切にしていきます。皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

一般社団法人ふくおかFUN
代表理事 大神 弘太郎

【200名の想いを“かたち”に。FUNクリーンアップデーを初開催】

ふくおかFUNでは、今期、新規事業として「海ごみ回収プロジェクト」を始動し、ダイバーたちが博多湾沿岸域の海底ごみの引き上げ・回収作業を行っています。2019年10月6日には、そのプロジェクトの一環として「FUNクリーンアップデー」を初めて企画・開催し、博多湾を愛する市民の皆さんとダイバー合わせて約200名が一体となって福浜（福岡市中央区）の海中と海岸の同時清掃を行いました。

参加者の皆さんは海岸に落ちていたり、漂流していたりするごみを拾い、ダイバーは、陸の上からでは手の届かない波打ち際や浅瀬のごみを回収しました。

また、清掃後には、“海のゆりかご”と呼ばれる「アマモ場」を博多湾に増やそうと参加者全員でアマモの種子団子を海に投げ入れたり、博多湾で獲れた魚介類（ヨシエビ）を使った当日限定のシーフードスパイスカレーを食べたりするなど、博多湾の豊かさを感じながら未来への想いを“かたち”にした一日となりました。

今後も市民の皆さんと共に、海への想いを大切にしながら活動を続けていきたいと思いをします。

協賛：エフコープ生活協同組合

協力：福岡市漁業協同組合伊崎支所、LOVE FM、一般社団法人新宮町おもてなし協会、一般社団法人福岡県海洋スポーツ協会

助成：日本財団「海と日本プロジェクト」、地球環境基金企業協働プロジェクト「LOVE BLUE助成」、エフコープ環境助成金

【福岡市科学館と初コラボ！博多湾からの海中生中継に成功】

2年前にリニューアルオープンした福岡市科学館と『夏うみDIVING～海中から生中継サイエンスショー～』を開催しました。

夏休みシーズン中、福岡市科学館へ訪れる小学生をはじめとする多くの皆さんに海の魅力や不思議に興味を持ってもらい、さらに博多湾の現状も伝えることができました。

また、イベント期間中に3日間限定で行った海中からの生中継では、その瞬間博多湾で泳いでいる魚やカニなどの様子を科学館ホールで映し出すと会場は驚きと興奮に包まれました。さらに、科学館に設置された「ダイバー先生への質問コーナー」には、期間中延べ約1,000個の質問が集まり、海やダイバーへの興味関心の高さを実感しました。

このように、海を少しでも身近に感じてもらうための新しく楽しいアイデアと機会を、今後もスタッフ一丸となって創り続けていきます。

実施日時：2019年7月1日～9月16日（海中実験ステージショー：7月20日、31日、8月20日）

実施場所：福岡市科学館（中継場所：博多湾志賀島周辺）

期間中のイベント来場者数：延べ約87,000名

海中実験ステージショー参加人数：第1回77名、第2回242名、第3回212名

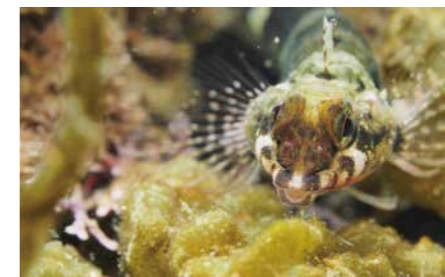
水中調査・撮影

ダイバーだからこそ見えるものを、伝え続ける。
豊かな海を守るために。

第5期は、継続して行っている博多湾内の定点調査に加え、国土交通省の博多湾調査に関連した能古島のアマモ場撮影や、福岡市漁業協同組合からの依頼による潜水調査等を行いました。

また、糸島市や加布里漁業協同組合の協力を得て糸島市での水中調査・撮影も新たにスタートし、豊かな自然が身近にあることを改めて実感することができました。

第6期以降も、活動水域を広げるとともに、そこで得られた水中世界の情報や魅力、課題を各事業において広く伝えていきたいと思いをします。



DATA

実施場所：
地行浜、新宮海水浴場、能古島、志賀島、西戸崎、今津湾、多々良川河口、糸島加布里湾
助成：地球環境基金「LOVE BLUE助成」



“ひろい”海の活動

未来を担う子ども達。

この海は、彼らの目にどう映るだろう。

ふくおかFUN設立当初から実施している“ひろい”海の活動を第5期も継続して行いました。

子ども達も大人もシュノーケリング体験を通して非日常の楽しさを感じながら、地元の海に住む生き物と海ごみの存在に同時に気づき、自ら考え行動する力を育みました。

また、第5期は冬から夏にかけて、スタッフの体力づくりやライフセーバーとの合同練習といった安全講習にも注力し、より質の高い環境づくりを目指しました。



DATA

実施場所：
新宮海水浴場（福岡県粕屋郡新宮町）、小戸公園（福岡市西区）
参加人数：延べ216名
助成：地球環境基金「LOVE BLUE助成」



海の学校の学び

海を伝える場所は、海だけじゃない。

そこに人がいるかぎり、私たちは想いを届け続ける。

第5期も、福岡市内外にある学校や各地での講演、イベントを通して、ダイバーだからこそ伝えられる“福岡の海”の現状、魅力、課題を発信しました。また、スタッフが増えたことにより、これまで以上に多くの場づくりに取り組むことができました。

「自分たちのまちの海と触れ合ってほしい」「福岡の海や生き物を知り、考えてほしい」

一人一人の心に向けて、様々な場面でこの想いを届け続けられれば、海はもっと豊かになりその自然を未来に伝承することができると思います。



DATA

実施場所：
《授業》福岡市立北崎小学校、新宮町立立花小学校、福岡県立福岡講倫館高校
《講演》テンジン大学、日本釣用品工業会「ジャパンフィッシングショー2019」、福岡県環境保全技術者の会、太宰府アートのたねワークショップ、まもる一む大学、山王ひなた美術教室「海から見つめるランドスケープ『ふくおか』」ほか
《イベント企画・出展》環境フェスティバル福岡2019、夏うみD I V I N G〜海中から生中継サイエンスショー、大丸バサージュ夏祭り、しんぐうのうみ展2019、西部3 Rステーション「エコフェスタ」ほか
助成：
地球環境基金「LOVE BLUE助成」

地行浜いきものプロジェクト

行政 × 市民 × 研究者 × ふくおかFUN

3年間の成果と想いを、これからもずっと繋いでいく。

2017年にスタートした『地行浜いきものプロジェクト』。最大3年間という期間のなかで行う本プロジェクトは、ついに最終年度を迎えました。今年もアマモ場造成や竹魚礁の設置、シュノーケル体験をはじめとする体験型講座、地行浜の定点調査・撮影等を行いました。行政や研究者、市民の皆さんと手を取り進めていくことで、共働事業ならではの気付きを得ることができました。関わってくださった方々の「地行浜の生き物をもっと増やしたい」という想いと共に走り続けた3年間でした。

いま、私たちは人の手で自然を豊かにするお手伝いができるかと改めて実感しています。

『地行浜いきものプロジェクト』としての事業は2020年3月で終了となりますが、ふくおかFUNはこれからも地行浜を見守り、伝え続けていきます。



企業 CSR

世界的に注目される環境問題。

企業に求められる「持続可能な未来への築き」の懸け橋に。

環境問題への配慮・地域社会への貢献を行うなどといった、企業の社会的責任(CSR)に注目が集まる昨今、各分野の民間企業様からお声掛けいただき、社員研修での講演や体験型イベントの企画運営を行いました。

企業の社員の皆さまやそのご家族に向けて、福岡の海について伝えるだけでなく、海で実際にマイクロプラスチックを探したりアマモの植付け体験を行ったりするなど、全員で楽しみながら活動に取り組みました。こうした動きの輪が広がり、継続されていくことが、結果としてSDGsの達成に繋がっていくと考えています。



DATA

実施企業
・ベルノ・リカール・ジャパン株式会社様
・日本水産株式会社様
・株式会社ドコモCS九州様

FUKUOKA おさかなレンジャー

見て見ぬふりはしない。

福岡が誇る豊かな博多湾を、海底ごみから守るために。

福岡市農林水産局水産振興課と、水産業の発展のために行う共働事業『FUKUOKAおさかなレンジャー』は2年目となりました。

今年度は、実際に博多湾で調査・撮影した写真や動画を使ったリーフレット、動画、ポスター等の素材を活用しながら積極的な啓発活動を展開する一方で、行政や漁業関係者との連携にとどまらず、他団体との新たなネットワークを構築することにも注力しました。

事業最終年度となる2020年度も、引き続き、普段の生活では分からない海底ごみの「見える化」を進め、リデュース意識の啓発を行います。

また、市民参加型のフォーラムやイベントを通じて、より多くの関係機関や市民の皆さんと共に持続可能なネットワークづくりを進めていきたいと考えています。





代表理事

大神 弘太郎 (こーたろー)

言わずと知れた、ふくおかFUNの代表。「福岡」と「海」と「ひと」をこよなく愛するダイバー。「自然伝承」の想いを胸に、心身ともに頼りになるスタッフに囲まれながら第6期も駆け抜けます！顔芸と歌とギターが得意。苦手なことは、お片付け。



プロジェクト管理
チームリーダー

大江 由美 (ゆみちゃん)

3年間のボランティアスタッフを経て、10月に満を持して正職員として入社。3度の飯よりふくおかFUNが好き。誰よりアツい海への想いを胸に、日々みんなに笑いと癒しを与えながらプロジェクトの企画や管理運営を行う。



水中調査
チームリーダー

智原 絵里 (エリー)

水中調査チームリーダー。まだ入社2年目でもあるにも関わらず、今や彼女なしではふくおかFUNの調査・水中イベントは成り立たない。口下手だけど、責任感と安全管理意識は人一倍。家族も巻き込みながら、今日も楽しく海に潜ります！

～12月初旬、ふくおかFUNの事務所でスタッフトークをしました～

こーたろー (以下「こ」): まず、みんなこの1年間で印象に残っている活動ってなに？

つゆっきー (以下「つ」): 私はやっぱり環境フェスティバルかな。
(注: 今年の環境フェスはつゆっきー、いっちゃん、じゅんきで担当しました。) まず「環境フェス」がどういうイベントなのかもわからない三人で企画から運営までを担当したので、これでいいのか？と思いながら手探りだったので。実際の作業よりも、考える時間の方が長かったかな。

いっちゃん (以下「い」): 私もやっぱり環境フェスティバル！つゆっきーが悩んだりしている横で、実は私は楽しかった！文化祭みたいな企画ものは昔から好きだし、手を動かす作業も好きだし。私が思いついた、海の問題を楽しみながら学べる「マイクロプラスチック魚釣りゲーム」を二人と一緒に発展させて実現できて本当によかった。

こ: 当日はどうだった？

つ: 当日が一番楽しかった！思ってた以上に子どもたちが楽しんで一生懸命で。FUNが大切にしている「**楽しみながら学び考える**」ことができる新しいコンテンツが生まれたよね！

こ: ゆみちゃんは？

ゆみちゃん (以下「ゆ」): 私は... かなり最近だけど、運営準備が後手後手になってしまった西部3Rステーションさんでの「エコフェスタ」かなあ。10月にFUNに入社してから、本当にわからないことが多くて。その中で、このイベントが自分に任されてるって意識もなくて...

こ: ん？それってクレーム？(笑)

全員: <爆笑!!>

ゆ: 笑 よく分からないままイベントが近づいてきたけど、皆の力を借りて当日はとでもうまくいったと思う。さらに3Rステーションさんにも展示やワークショップの内容を「とても良かったです！」って言ってもらえて。

こ: よかったよね！いやーなんか、もう「ふくおかFUN=大神弘太郎」じゃないなって思うよ。みんなが自分たちなりのふくおかFUNという絵を描いて、アイデアを出して作ったものって、俺には絶対できないものだから、本当にすごい！一番は、「**伝える、そして伝わる**」っていうことが大事だと思うし。

こ: エリーは？

エリー (以下「エ」): 私はいくつかあるんですけど、一つめは、小戸公園でのアマモ場づくり活動。二つめは「FUN クリーンアップデー」！

こ: FUN クリーンアップデーの方は他のダイビングショップの人たちとの関わりが大変だった？

エ: そうですね。やっぱり相手もインストラクターさんだったり、ダイバーさんだったりなので、海況の問題で当日はシュノーケリングで海に入ってもらわないといけなくなって。海底のごみを拾いに来てもらってるのに、潜って取れないってなると達成感を感じにくいかな、とか。そういう、いつもと違う気の張り方というか、そこが大変でしたね。

こ: うんうん、ここは、シビアな現場判断が必要やけんね。いつも言ってる通り、**FUNの現場では「自分の中で迷ったらやめる」**というのは鉄則で、迷ってやると自分のキャパを超えてしまって、トラブルに対処できないことも起こり得るからね。相手の人数が増えれば増えるほど、シビアな現場判断をしないとイケない。

ゆ: 小戸での活動が印象に残ってる理由は？

エ: 小戸は・・・(笑) こーたろーさん不在の中で進行を任されて... いやー、本当に嫌だったんですよ

全員: <笑>

ゆ: エリーから「嫌」って言葉、聞かないよね！

エ: 人前で話すの本当に苦手です。でも、最後にコータローさんに頼るのもなんか違うなと思って。めっちゃ葛藤したけど、やれる！頑張ろうって思って。準備にかなり時間はかかったんですけど、最終的にやれた！っていうのが大きかった。

こ: なんかさ、これまで聞いてきて、みんなが印象に残ったことって「**任されて、チャレンジして結果としてできた!**」っていうことが共通してるよね。あと、「任されたのはいいけど、どこまでやればいいのか？」っていうのをほとんど全員から言われた(笑) その背中押しが必要なんやなって思った(笑)

ゆ: そんなエリーをみて、私も12月のイベント頑張れたよ。みんな、ほかの誰かが頑張ってるのを見て、自分も頑張ろうって思うってことよね。

こ: それ本当にいいことだと思うよ。ちこは第5期どうだった？

ちこ (以下「ち」): 5期で自分の仕事で印象に残っているのは、採用活動だったなー。2019年が始まって、代表が「スタッフを増やして、もっと力を高めてやっていきたい」って言ってたから。それで2018年に続いてまた採用活動を始めたけど、なかなか思うようにはいかなくて。でも、あれやこれや考えながら続けてる中に来てくれたのがつゆっきー、いっちゃん、じゅんき。三人がFUNに入ってくれたことで、諦めなければいい結果が生まれるんだなあ、ずーとうまくいかないなんてことはないんだなあ、って思った。それがきっかけで、うまくいかないことがあっても気にならなくなった。アップダウンにあまりのまれなくなってきたっていうか。

つ: やっぱり、最初は何もかもわからないけど、経験してだんだんわかっていくから、今度同じようなチャレンジがあったら感じ方がまた違うかなって思う。**決められたことが少なくて、余白の部分があるのはそれぞれの個性が活かせる伸びしろであるから、そういうものがあるのはFUNの良さ**だと思う。

こ: どこまでやればいいのか？とかこっちはよくわかってないよね(笑) FUNが大事にしている部分さえあれば、自分の尺度で本当にどこまでやってくれてもいいと思ってるから。

～第6期のスタッフテーマ【「できない理由」より「できる方法」】について話しました～

こ: どうしても、人ってプレッシャーがかかるとできない理由を言って自分を守るんだけど、それは根本的な解決にはならないよね。できない理由が「**時間が足りない**」のであれば、時間がないうらに何が出来るかを考える。そうして発想を転換させることで、相手の予想を超えたパフォーマンスができるっていうのがすごくあって。最初はトレーニングが必要なんだけど、慣れてくるといろんな事が楽しくなってくる！

ち: 本当にできないことはできないんだけどね(笑) できないと思ったことも、「**どうにかしたらできないかな?**」って考えるだけでもいいと思う。

ゆ: みんなと一緒に考えてもいいの？

ち: もちろん。

こ: 博多湾の魅力や課題ってさ、本当にたくさんあって、俺たちが取り組んでいることはそのうちのごく小さな部分で、「**それって意味あるの?**」って言われたりするやん。そういう足を止めさせる要因もあると思うけど、でも、**やるぞって言ってやらないと何も変わらない**やん。そういうことかなって思う。

ち: やらないよりやった方が、成功しても失敗しても経験になるよね。

ゆ: うん、相談しながらやってみる！自分だけでわからなかったら、どう思う？って。

全員: だね！

プロジェクト管理チーム

露木 智子 (つゆっきー)



2019年5月に入社した事務局スタッフ。自身でもぎ蒸しサロンや自然農を営む。ふくおかFUNでは、細やかで正確なタスク管理で裏方全般を支える反面、誰にも負けない天然ぶりも発揮。活動中の大きなサングラスがチャームポイント。

水中調査チーム

坂井 いつき (いっちゃん)



2019年6月に入社したダイバースタッフ。約1,000本のダイビング経験を持ち、子育てに専念した後、娘の幼稚園入園を機にふくおかFUNのダイバーとなる。視界不良の海況でもここにこ笑いながら1,000本のアマモを植付ける姿が頼もしい。

水中調査チーム

江幡 純希 (じゅんき)



2019年7月に入社した、ハワイ帰りのルーキーダイバー。ちょっと変わったところはあるけれど、お茶目で素直な27歳。先輩ダイバー達に日々ままれながら、第6期も成長と進化を続けます！

※座談会当日は残念ながら急遽欠席

事務局

土田 愛子 (ちこ)



事務局担当。OL時代の実務経験を活かし、風のように早いパソコンのブラインドタッチと管理能力で設立当初からふくおかFUNを支える。誰からも頼りにされるお母さんの存在だが、日焼けが苦手な酔うとコケる。

第6期はこれまでの活動を継続することに加えて、下記のような取り組みに力を入れていきます。

水中調査・撮影の幅をひろげる

第6期は博多湾以外にも様々な海の水の中データを蓄積し、比較検証を行えるようにしていきたいと考えています。これにより、多面的に海の魅力や課題を捉える事が可能となります。

海ごみに関する取り組み

現在世界中で問題視されている海ごみについて、ふくおかFUNでもこれまでに「FUKUOKAおさかなレンジャー」や「FUN クリーンアップデー」などの活動を行ってきました。今後は海だけでなく、森川里の繋がりを大切にし、活動を行っている団体間のネットワークをひろげていくことで、海ごみ問題の解決や、生き物たちが住み良い環境づくりを目指します。

全国アマモサミット 2020 in FUKUOKA

全国アマモサミットは2018年は大阪府阪南市、2019年は宮城県塩釜市で開催されました。第13回目となる2020年は福岡市で開催が決定しており、これまでアマモ場づくりを行ってきたふくおかFUNとしても、このサミットに精力的に関わっていく予定です。

ふくおか FUN では、団体理念や活動趣旨に賛同を頂ける方々のご参加・ご支援を募集しています。

【サポーター会員として寄附する】

当団体のサポーター会員にご登録いただける方はご希望のプランをお選びいただき、お支払い方法をご確認の上、お手続きくださいますようお願いいたします。会員の皆さまへは、ふくおか FUN の活動報告を記載した広報誌およびオリジナル特典をご登録住所へ随時発送します。(申込方法や特典の内容はQRコードからご確認ください)



サンゴタツ会員
年間 6,000 円
(月々払い：500 円)

ハナタツ会員
会費：年間 12,000 円
(月々払い：1,000 円)

タツノオトシゴ会員
会費：年間 36,000 円
(月々払い：3,000 円)

アマモ会員
会費：年間 3,000 円
(月々払い：不可)

【ボランティアスタッフとして活動に参加する】

海や自然が大好きな方、子ども達と遊ぶことが好きな方、ボランティア活動に興味がある方、教育関係、イベント関係、自然体験に関する仕事を目指している方などなど、私たちと一緒に活動してみませんか？ 学生でも、社会人でも、元気とやる気があればOKです。活動ボランティア募集の際は、当ホームページやブログで告知を行いますのでご確認ください。



- 2014年12月 設立、登記
2015年2月 博多湾の生物多様性や環境保全について伝える活動(通称:海の学校)を始める
2015年3月 小中学生を対象とした「“ひろい”海の活動」事業を始める
2015年4月 福岡市の後援を受ける
「災害救援ダイバー育成」事業を始める
福岡の海の「水中環境調査・観測・撮影」事業を始める
2015年5月 スキューバダイビング一日体験「FUN 海体験」事業を始める
2015年12月 福岡市役所内にて博多湾の水中写真展を行う
2016年3月 スキューバダイバーより博多湾の環境保全基金を募る
2016年4月 公益財団法人日本財団の助成を受ける(～2016年12月)
独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金の助成を受ける(～2017年3月)
2017年3月 福岡アジア美術館にて水中写真・映像展「ふくおかのうみ展」を開催
2017年4月 福岡市環境局保健環境研究所との共働事業「地行浜いきものプロジェクト」を始動
エフコープ生活協同組合の助成を受ける(～2020年3月)
公益財団法人大阪コミュニティ財団/東洋ゴムグループ環境保護基金の助成を受ける(～2019年3月)
一般財団法人セブン-イレブン記念財団の助成を受ける(～2018年3月)
独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金企業協働プロジェクト(LOVE BLUE 助成)の助成を受ける(～2020年3月)
2017年10月 当団体代表・大神弘太郎が「一般財団法人セブン-イレブン記念財団」が主催する『第20回環境NPOリーダー海外研修』のメンバーに選出され、ドイツに渡航する
2017年11月 福岡市西区生松台3丁目19番5号に事務所移転
2018年3月 福岡市中央区「天神CLASS」にて水中写真・映像展「ふくおかのうみ展」を開催
2018年4月 福岡市農林水産局水産振興課との共働事業「FUKUOKA おさかなレンジャー」を始動
公益財団法人日本財団の助成を受ける(～2019年12月)
2018年5月 博多湾NEXT会議に参画
2018年6月 第9回「福岡市環境行動賞」優秀賞を受賞
2019年4月 「海ごみ回収プロジェクト」を始動
2019年7月 福岡市科学館とのコラボ企画「夏うみDIVING～海中から生中継サイエンスショー～」を開催
2019年10月 海中海岸同時清掃イベント「FUNクリーンアップデー」を開催



一般社団法人ふくおかFUNは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。



一般社団法人
ふくおか FUN
Field & Underwater Naturalists

〒819-0044 福岡県福岡市西区生松台 3-19-5

TEL&FAX 092-407-6970

E-mail uminogakko@fun-fukuoka.or.jp

URL <http://fun-fukuoka.or.jp/>

2019年12月発行